

卷之四  
水郷玉島  
前編



玉島港（川崎みなと公園付近）

満潮の大潮が岸壁の上を洗う。右手は右かに玉島大橋（源平大橋と）が見える。

もくじ

	水郷玉島 前編	.....	93
〔壹〕	水門点景	.....	
〔二〕	溜川水系	.....	
〔三〕	葦屋敷風水門	.....	95
	資料 玉島港町の変化と水門の分布 (97)		
	補説 海水の侵入を防ぎ排水を助ける水門		
〔四〕	旧港橋水門と姿を消した土手町	.....	99
	土手町周辺の変化 (100)		
〔五〕	旧新橋水門と背戸川水門跡	.....	101
	資料 玉島新田開港と背戸川水門 (103)		
	付 玉島図書館とその変遷		
〔六〕	矢出水門と古い水門の構造	.....	105
	水門を開ける仕組み (107)		
	補足 羽黒神社奉納の絵馬(水門工事) (108)		
〔七〕	新地町水門	.....	109



葦屋敷風水門……旧中島と矢出町の海岸道路から見る。〔97ページ分布図③〕

〔吉〕 水門点景

〔カ〕 溜川水系

〔カ〕 蔵屋敷風水門（溜川排水機場）〔97ページ分布図①〕

河川名 二級河川 溜川（流域面積約17km<sup>2</sup>） 事業主体  
 事業名 河川高潮対策事業（平成七年六月完成） 岡山県倉敷  
 水門（主ゲート）幅20m 高さ3.5m 地方振興局



郷土しおり

玉島港は十七世紀後半、備中松山藩  
 主水谷<sup>みずのや</sup>氏の新田開発に伴い、藩の外港  
 として整備が図られ北前船が寄港し、  
 高瀬船が行き交う物資の集散地として  
 栄えた。

港周辺には白壁の蔵や問屋が立ち並  
 び、山陽の小浪華（なむら）ともいわれ備  
 中一の産業港として発展し、文人墨客<sup>ぶんじんぼくかく</sup>  
 の出入りも盛んで、経済・文化の両面  
 で繁栄した港町であった。

排水機場およびゲート操作室の建物は、  
 往時を忍び、港町の面影をイメージ  
 した白壁の蔵屋敷風とし、玉島のシン  
 ボルとして人々に親しまれるよう景  
 観の配慮がなされている。

— 写真上の立看板の案内文 —

写真の立看板は前ページ写真の左奥の建物と  
 手前の平たい建物との間の通路入口に設置されて  
 いる。



写真上……水門ゲートと小橋

ゲートに並行して架けられた歩行者用小橋にも 景観を配慮した意匠がこらされ、すべてにわたりにこだわりが見られ、水門のイメージを大きく変えている。

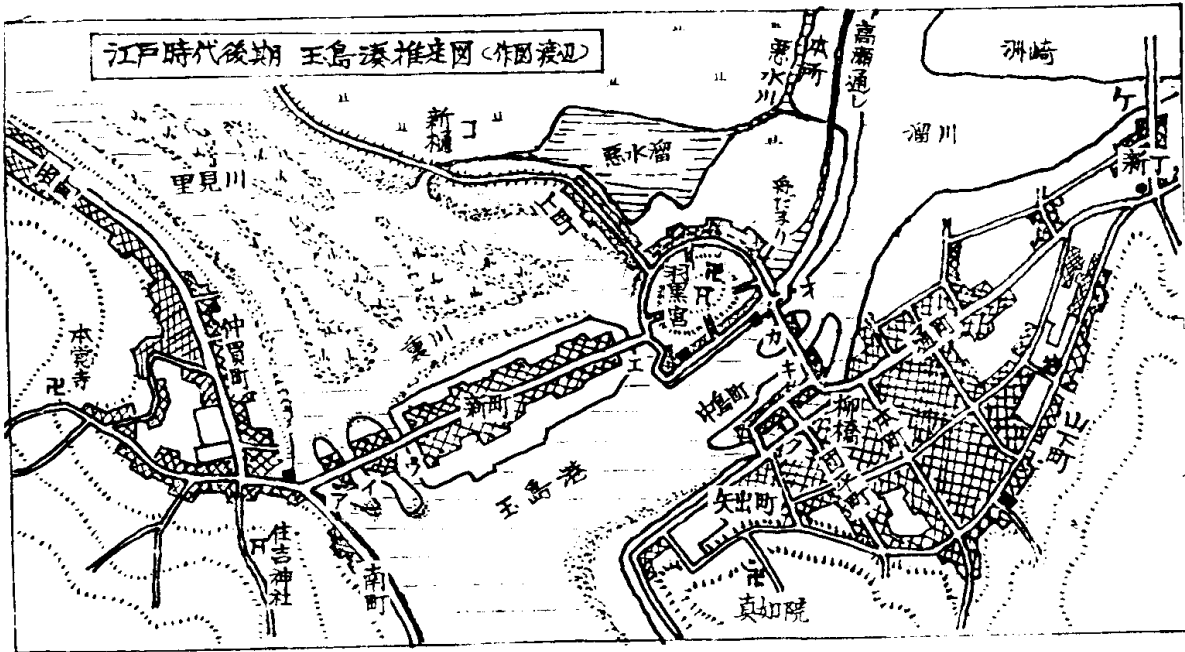
写真下……水門の表側

写真中央に横たわる新港橋。その手前に船が見える付近は



↓ 玉島港湾の最奥に当り、川と海の接点でもある。

▲資料・玉島港町の変化と水門の分布▼



- |                 |  |               |   |
|-----------------|--|---------------|---|
| 里見川水系<br>(新町水門) | ア 大水門<br>イ 中水門<br>ウ 小水門(寄屋水門)<br>エ 阿弥陀水門<br>オ 新樋水門 | 溜川水系<br>(港水門) | カ 水門<br>キ 田村水門<br>ク 中水門<br>ケ 矢出水門(美袋屋水門)<br>コ 背戸川水門 |
|-----------------|--|---------------|---|



- |              |                       |                   |
|--------------|-----------------------|-------------------|
| ア 昭和水門       | イ 裏川水門                | ウ 新樋水門跡           |
| エ (本所懸水川) 水門 | オ 新橋水門 [廃止]           | カ (新地町) 水門        |
| キ 背戸川水門跡     | ク 港橋水門 [廃止]           | ケ 矢出(美袋屋) 水門 [廃止] |
| コ 葺屋敷風(溜川)水門 | [□……里見川水系    ○……溜川水系] |                   |
| ① 浮き橋        | ② 旧柳橋                 | ③ 中橋              |
|              |                       | ④ 旧矢出橋            |

◆補説・海水の侵入を防ぎ排水を助ける水門◆

もともと海を干振してできた玉島平野には海抜一メートル前後の低湿地帯が広がり、縦横に走る用排水路には大小無数の水門が点在していた。とりわけ水が集まる羽黒山周辺には広い遊水池と大きな水門が数多くあった。

……前ページ上段 江戸時代図参照……  
そして満潮時や高潮には水門を堅く閉して海水の逆流侵入を防ぎ、干潮時には水門を開けて内側に溜った悪水を引き潮と共に海へ放流する。

しかし時代の進展と共に市街地の水路は整理され暗渠と化し、遊水池も次第に埋立てられて狭ばめられたりして、視界から姿を消したものも多い。水門もまた老朽化などに伴って統廃合されて、現では昭和の水門と葦屋敷風水門の二つの近代化設備に置きかえられてしまった。

江戸時代からの水門遺構は全く姿を消し、明治以降に改築や新設された水門が今は役目を終えて、昔日の姿をわずかにとどめて水郷玉島の点景となっている。

……前ページ下段 現在図参照……



旧港橋水門（葦屋敷風水門から望見）  
〔97ページ分布図⑦〕

昭和23年、橋と水門が併設建造された。鉄筋コンクリート製に鉄製扉をもつ水門。右端建物が機械室で、中に据えられた巨大モーターが水門上部のウインチを動かし水門の鉄扉が巻き上げられ、また巻き下ろされた。当時としては新技術導入の画期的な設備であらう。

土手町の下を流れる水路（旧新橋水門から望見）



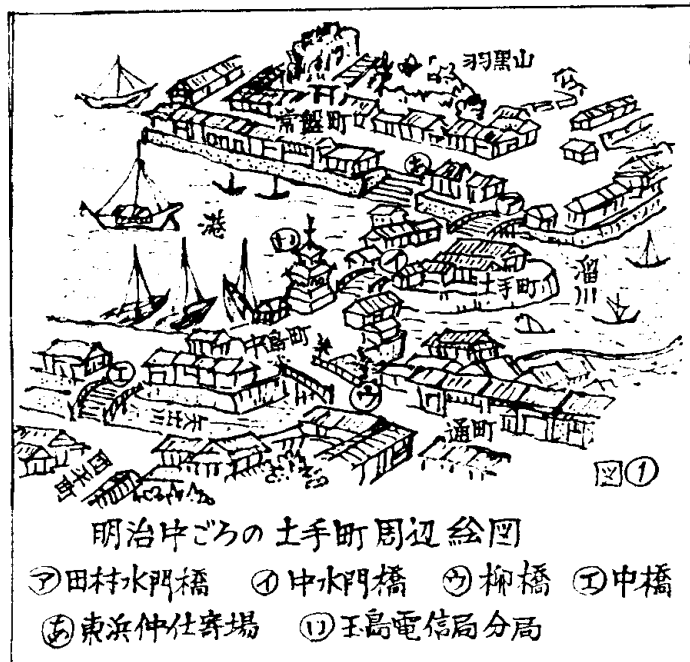
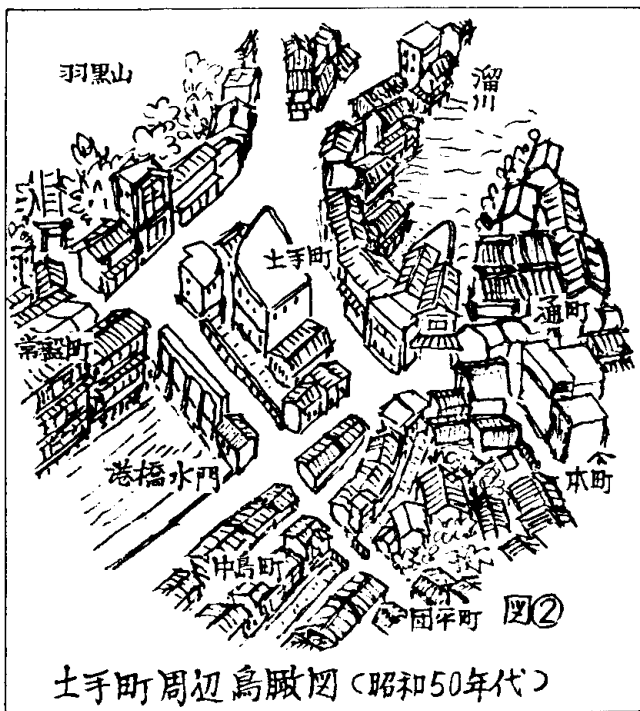
（旧港橋水門と姿を消した土手町）

水路の流れは昔も今も変わっていないようだ。上の写真中央の石垣積みは旧中島町の北端。その左奥の黒い部分に水路があり、旧柳橋の下をくぐり矢出川と呼ばれて旧矢出水門を経て海へ出ていた。中央の石垣と右の石垣との間の水路は旧中水門を経て海へ、また右手石垣に沿って右奥に旧田村水門があり海へとそれぞれ流れ出ていた。（次のページ 図① 参照）

下の写真…… かつては商店が軒を並べていた跡の敷地の狭いこと……（次ページ 図② 参照）

姿を消した商店の跡と水路（旧港橋水門から見ると）  
かつては商店を支えていた大きなコンクリートの  
土台が水路の上に張り出している。



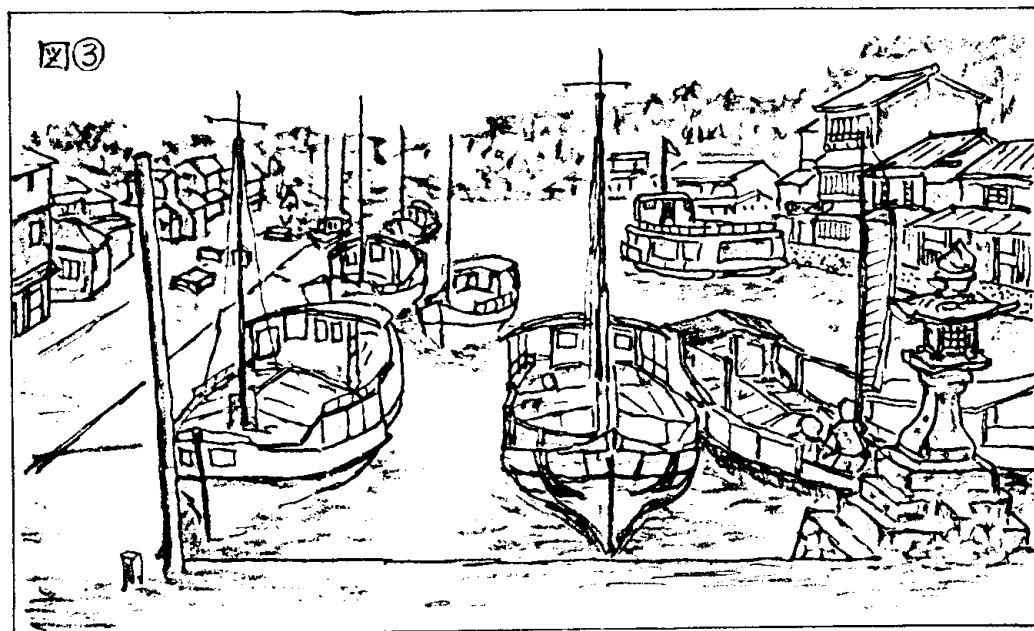


昭和初期ごろには土手町の前面に荷揚場があり海に向って雁木が作られていた。天神祭の時神輿はここから船に乗せられて港を巡航したという。

この頃は機帆船の全盛時代で北九州と阪神間を往き来する船の出入りでにぎわい。また王島から多度津・丸亀への四国連絡の旅客船も発着していた。

(図③参照)

昭和二十三年東浜荷揚場付近に港橋水門と橋が作られ、さらに中島町の荷揚場も海岸道路として整備されて、港の様子が一变するようになった。



昭和十年ごろの王島港東浜(古い写真の模写)

右下の石燈籠は現在川崎みなと公園に移されて保存。右上の三階建は船宿柱屋でその傍らの船は四国連絡の掘越丸。

左側は中島町の荷揚場。



旧新橋水門（内側）



旧新橋水門と背戸川水門跡

新橋が作られたのは昭和17年3月（橋の西詰め親柱に刻啓）。水門も多分同じ時に作られたものと思う。コンクリート製のスッキリした形だが、当時はまだ手動で、水門上部のハンドルを回転して水門の扉を上下に開閉した。田村水門、中水門に代って一時期活躍したと考えられる。新橋ができるまでは、それより少し北に木造の橋があり、新地町と対岸洲崎の玉島裁判所とを結んでいた。



石造りの新橋（水門に接して南側・玉島図書館の方から見る）左側の歩道は後につけられた。

「97ページ分布図④」



水のある風景へ玉島図書館前（遊水池）から見る  
背戸川と溜川の合流点にあたり広い遊水池となっている

下の写真の背戸川水門跡は玉島図書館の前を東へ300mほど行ったところにある。いつごろ改築されたのか不明であるが旧新橋水門と共に活躍していた時期があったと思われる。  
古水門といわれた古い背戸川水門はもう少し東の小さな橋付近にあったと考えられる。玉島新田開発の初期堤防と運命を共にしたのであろう。（次ページ資料④⑤）

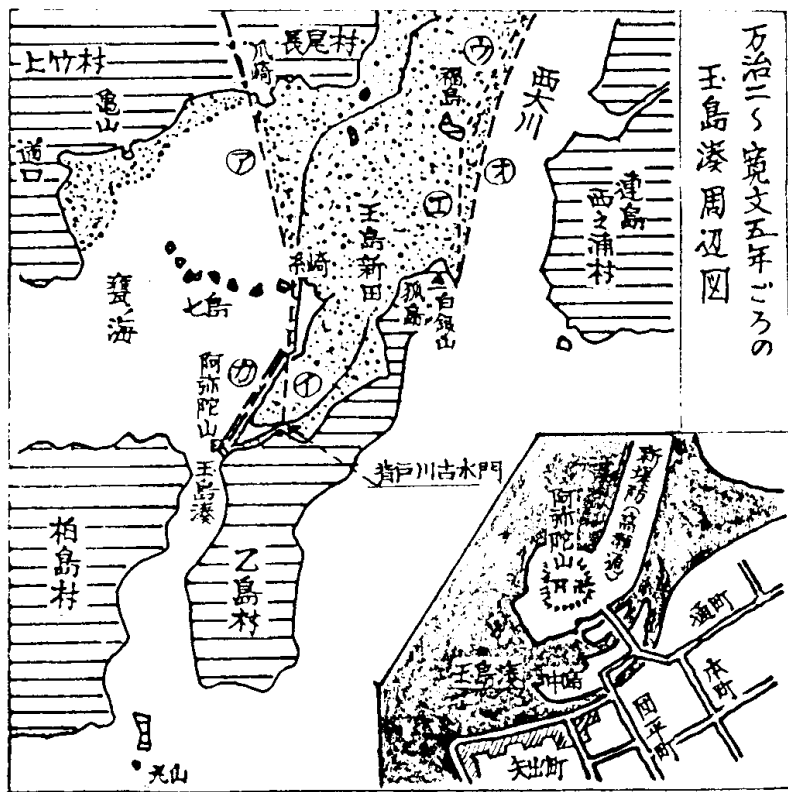


背戸川水門跡 「97ページ分布図④」  
鉄製の水門柱が昔日の姿をわづかにとどめる

資料 玉島新田の開発と背戸川水門(古水門)

① 玉島新田ができたのが江戸初期の万治二年(一六五九)と一般的にはいわれている。実際にはその後少なくとも二回潮止め堤防をより海側に新しく築いて新田を拡張して現在の姿になっていったようである。「左図参照：図中の㊦・㊧の堤防」

② 玉島新田の西側の潮止め堤防は、瓜崎から系崎「七島の東端・福荷社のある小山の東山裾付近」を見通した線上(図中㊦)、系崎から新丁鼻「現玉島一丁目・小西



万治二〜寛文五年ごろの玉島湊周辺図

- ㊦① 明暦元年築堤    ㊧ 正保2年築堤    ㊨ 万治2年築堤  
 ㊩ 寛文3年ごろ築堤    ㊪ 寛文4年築堤 → 寛文11年〜  
 ㊫ 寛文4年とりこわし    延宝2年高瀬通し築堤

青果の北方付近)を結ぶ線上(図中㊦)に、明暦元年(一六五九)に築かれた。これが玉島新田の初期の堤防である。

③ その後寛文四年(一六六四)、さらに西側へ新しい堤防(図中㊧)……倉敷青年の家付近から阿弥陀山(羽黒山)を結ぶ線上に築いた。そして図中㊦の初期堤防部分をとりこわした。

▼ 新堤防を築くためには大量の土が必要……この時玉島村と富田村との間で密かに土とり場として七島のうち一島を玉島に譲与する。代りに高瀬通しの水を富田へ分与すると約束がかわされた。しかし岡山藩戎口郡代官の知るところとなり密約が破棄された。その結果、玉島側は高瀬通しの富田側境いの堤防や川底は一滴の水ももらさぬ頑文なものにしたといふ。また富田側では大工番として増原池を作ったといふ。(詳細は玉島むかし昔物語 68〜70ページ参照)

……高瀬通しができたのは初期の玉島新田開発より十年以上も後のことである……

④ とりこわされた初期の堤防跡は、小西青果の西側道路を北に向って国道筋一丁目広島銀行東側をさらに北へ、中瀉へと一直線に延びる筋がそうではないかと推測している。

⑤ 古水門といわれた背戸川水門は、小西青果の北にある小さな橋付近にあったと考えられる。

〔附〕玉島図書館とその変遷



開館当初はモダンな建物と周囲の雑然とした景観が何となくちぐはぐな違和感を感じたが、十年余もたった今では図書館周辺の樹木も大きく育って葉を茂らせ、植込みの形も整った。なによりも永らく図書館前の空地兼駐車場だったところが親水公園として整備されたことである。

溜川の浄化運動と共に恵まれた水辺の景観が形作られ、心なごむ雰囲気となってきた。

(このページ写真も参照)

玉島図書館の変遷と旧図書館

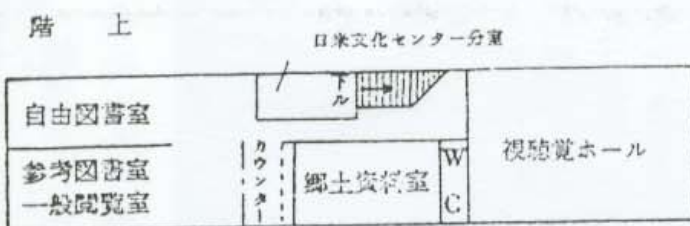
昭和二四年二月 羽黒山に創設(清龍寺を使用)  
 昭和二六年五月 新町に移転(旧玉島税務所跡建物)

昭和三九年五月 阿賀崎の野球場南側に新築  
 開館(現在玉島歴史民俗海洋資料館…巻之参 港町残照

69ページ参照)

昭和六三年五月 玉島二丁目洲崎の旧玉島裁判所跡に新築開館

— 現在高越氏住宅? —



階 下 [旧玉島図書館平面図]



外観及び内部の間取りなどは、そのまゝの形で海洋資料館に転用(巻之参 69ページ平面図参照)

(工) 矢出水門と  
古い水門の構造  
〔河内・分福園〕

江戸時代の古い水門の構造などがわかる資料に乏しいが、古老の話などからさぐってみる。

単純な仕組みとしては図①のように水門を開ける時は、水門番が腕木をにぎってたぐるようにして輪軸を回転させて、しゅろ縄を巻き取りながら、水を塞ぎ止めていた関板と呼ばれるものを引き上げる。

足もとまで引き上げた関板を一枚ずつ足で蹴って樋柱の溝からはずす。関板が引き上げられるにつれて水路の内側にたまった水は外へ（海）流れ出していく。樋柱の頭部には関板が溝からはずれやすいように細工がしてある。

(図②参照)



写真は矢出水門を上手の中橋から見たもので、水路中央に立つ石の樋柱が古い水門跡。その奥に見えるコンクリート製の枠組みが新しい水門であり、電動式で水を塞ぎ止める鉄扉を上下して開閉した。共に役目を終えたが、新旧二つの水門が残っているのは珍しくもあり、また貴重な存在でもある。





写真左は水門の下手側で上手と同じ  
古い水門の樋柱が残っている。

水路の両側壁にも樋柱が埋め込まれている(写真上の左)。樋柱の中央縦に  
ほられた溝に 閘板(図③)のほそが通り、水圧に耐えてはずれないようになっている。  
水路に渡したコンクリート床は近頃まで物置の床であったが、江戸時代には、  
このコンクリート床付近に水門をゴッホリと覆う水門小屋があったという。  
水門小屋は古い水門の上手と下手のそれぞれにあったと思われるが、くわい  
ことはわからない。(水門小屋や内部の仕組みなどは玉島むかし昔物語 77~80ページ参照)



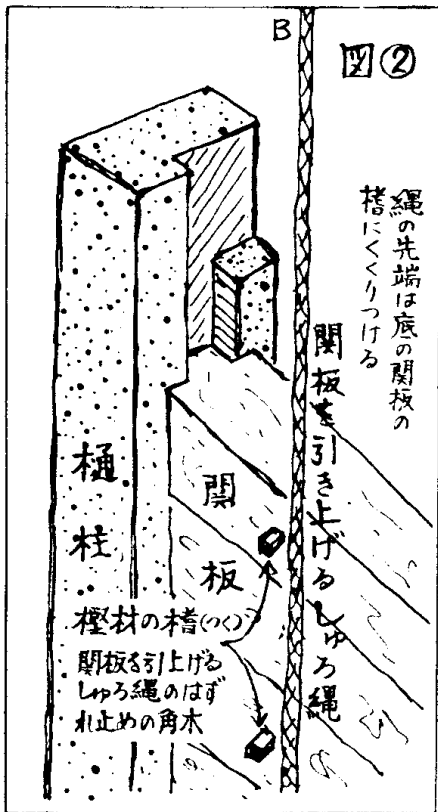
写真右・古い水門の水路中央の樋柱  
は水圧に耐えるよう根元がしっかりと  
補強されているのがわかる。

一枚でもかなり重量がある関板(図③)をせよ  
 八枚—水分を含んで相当重くなっている。さ  
 らに樋柱の溝にはまった関板のほぞが水圧であ  
 しむ。人力で引き上げるのはまさに重労働であ  
 ったと思われる。

屈強な水門番二人が「えーんやなー こおら  
 ーやつとー」よーいやなー せええ  
 ーのおーと掛け声と共に力を合わ  
 せて輪軸の腕木を動かして、じわり  
 じわりと引き上げたという。

阿弥陀水門小屋では、かつ車を使  
 用して力の効率化と、鋸目歯車の装  
 置で輪軸の逆もどりを防ぐなどの工

樋柱の上端は 関板のほぞ  
 が抜けやすいように 溝の片方  
 の縁が欠けている。



図②

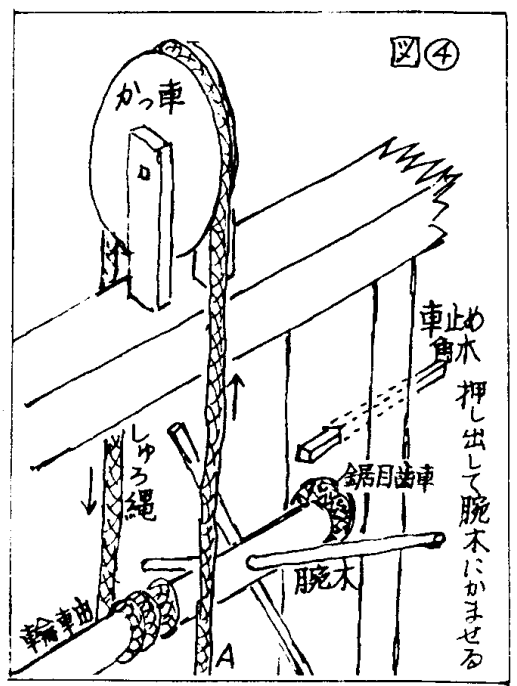
繩の先端は底の関板の  
 溝にくくりつける

厚さ4寸(約13cm)  
 長さ5尺4寸8分(約165cm)  
 幅8寸(約26cm)  
 松の1枚板で  
 両端に「ほぞ」がある



図③ 関板

図④ 腕木を操作して  
 輪軸を回転させ、かつ車  
 を通したしゅうろを巻き  
 取る。しゅうろの先端の  
 (Aは図②のBへ)関板を引上る。



図④

夫(図④)がこらされていたという。  
 水門小屋は当時の機械室というこ  
 とであり、矢出水門にも小屋があっ  
 たという。

くわしくは玉高むかし昔物語 75-80ページ  
 「阿弥陀水門と水門小屋」水門の構造」等  
 を参照のこと

補足

次ページ上段の写真は羽黒神社の絵馬堂  
 の絵馬の一つである。江戸時代の水門築造  
 工事の様子を描いたものと思われる珍しい  
 ものである。

明治二年三月奉納 高見帝徳  
昭和三年八月修復 高見義太郎

「本町」宝亀  
「酒造」?



水門の樋柱2本が立ち、さらにその中央に樋柱を立てようとしている [上の写真中央下]  
 左に1基、右に2基の大きな轆轤(みくら)が活躍している。右下轆轤の近くでは水車を  
 ふんで水をかい出す人の姿も見える。右上の白い幕を巡らして小屋の中には作事奉行と  
 思われる武士の姿があり、左端の橋の上には多くの見物人でにぎわっている。  
 さらに左上の蔵の前には高札場も見える。いっごう、どこの水門建設を描いたものなの  
 か。旗印の紋は何かなどがわかれば楽しい。

水門下手から海へ流れ出る矢出川の古い石積み護岸。  
 白いきりぎりすの跡は満潮時の水面であったのだろう。





お 新地町水門 〔97ページ分布図⑦カ〕  
江戸中期以降・高瀬通しと舟だまりの



東堤防上に町屋が並び新地町と称されるようになった。  
写真下の道路は江戸時代には排水路で途中にいくつかの水門があったといひ、ひょうたん水門(97ページ上図オ)から溜川へ流出していたという。今では水路は埋められて道路となり、本所方面からの悪水川の放流口はこの路次への北入口に水門が設けられ、近年改築されて新装置の水門と姿を一新した。〔写真上〕





写真上……溜川排水機場(蔵屋敷風水門)の設備概要のプレート  
 94～96ページ 蔵屋敷風水門参照

写真下……溜川にせり出した新地町の家並み。 家の表は道路に面した地上に、  
 家の半分以上裏手は水上にせり出して、水中の支柱に支えられている。  
 新地町に限らず、港の周辺では狭い土手の有効利用の生活の智慧が随所に見られる。

